

「その肌トラブル、様子見で大丈夫？」 ぺこばさんと皮膚科専門医が化膿性汗腺炎（HS）について 理解促進と“早期受診の大切さ”を発信

－ HS 疾患啓発週間に合わせ、皮膚科受診の大切さを呼びかけ。アーカイブ動画も公開中 －

ユーシービージャパン株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：菊池 加奈子）は、6月第1週の「HS 疾患啓発週間」に合わせ、6月6日（土）に、「化膿性汗腺炎（かのうせいかんせんえん）〔HS：Hidradenitis suppurativa〕」の疾患啓発を目的としたトークセッション「その肌トラブル、様子見で大丈夫？実は化膿性汗腺炎かも？迷ったらひふ科へ！」をユーシービージャパン公式 YouTube チャンネルにて生配信しました。

▶アーカイブ動画 URL：<https://youtu.be/7TYxhmu5ePg>

本イベントでは、筑波大学医学医療系皮膚科 教授 乃村俊史先生、琉球大学大学院医学研究科 皮膚科学講座 講師 山口さやか先生、お笑いコンビ・ぺこばのシュウペイさん・松陰寺太勇さんが登壇し、HS の症状や治療法、皮膚科受診の大切さについて発信しました。



（左から）道岡桃子さん（イベント MC）、山口さやか先生、乃村俊史先生、シュウペイさん、松陰寺太勇さん

HS は、わきの下やお尻、太ももの付け根、間擦部などに発生し、皮膚の痛みや腫れ、炎症を伴う慢性の皮膚疾患です。進行すると激しい痛みを引き起こし、日常生活に支障をきたすこともあります。この疾患は、早期の受診と適切な治療が重要であるとされる一方で、認知度が低く、確定診断までに平均 7 年ほどを要するという報告があります¹。

本イベントでは、皮膚科受診をテーマにしたクイズや、HS セルフチェックシート等も交えながら、HS の症状や治療法、皮膚科受診の重要性について分かりやすく解説しました。また、「気になる症状があれば様子見をせず、早めに皮膚科を受診することが大切である」というメッセージを、医師による解説やぺこばのお二人とのトークを通じて発信しました。

なお、本イベントの様子はユーシービージャパン公式 YouTube チャンネルにてアーカイブ配信を行っています。

【イベントレポート】

■ 乃村俊史先生「早めの治療が大事」

乃村俊史先生からは、HS がわきの下や太ももの付け根、臀部などに痛みや膿を伴う症状が現れ、再発を繰り返す慢性の皮膚疾患であることや、症状が悪化する要因、さらに重症化した場合の日常生活への影響について解説いただきました。

また、HS は突然重症化するのではなく、徐々に進行していくことが知られていると説明。実際の症例写真を交えながら、重症化する前に早期に治療を開始することの重要性についてお話いただきました。最後に、「こうした症状に心当たりのある方は、お近くの皮膚科を受診していただければと思います」と呼びかけました。



■ 山口さやか先生「悪化する前に皮膚科に来てほしい」

山口さやか先生からは、HS の治療についてご紹介いただきました。患者さんの症状や重症度に合わせて、炎症を抑えるための薬物治療、排膿や切除などを行う外科治療、痛み止めや精神的なケアを行う補助的治療、食事や運動の指導、禁煙などを行う生活指導を組み合わせる治療をすることをご紹介いただきました。また、軽症の段階から治療を開始することで症状の進行を抑えられる可能性があるとして、「悪化する前に皮膚科を受診してほしい」と呼びかけました。さらに、HS は世界的に研究や新たな治療法の開発が進められている分野であることにも触れ、「諦めずに相談してほしい」とメッセージを送りました。



■ ペこば「一人で悩まないで皮膚科に相談してほしい」

ペこばのお二人は、イベント冒頭で HS について「知らなかった」とコメントし、これまで皮膚の症状があっても「そのうち治るだろう」と様子を見たり、市販薬で対応したりすることが多く、皮膚科受診をためらっていたと明かしました。

乃村先生、山口先生とのトークを通して HS への理解を深めるとともに、症状検索や病院検索サービスについて知ったことで、「早い気付きにつながった」、「病院へ行くハードルが下がるのではないかと思った」と語りました。またシュウペイさんは、「病気について知る人が増えることで患者さんも相談しやすくなると思う」、松陰寺さんは「気になる症状がある方は迷わず病院に行ってください」とコメントし、周囲の理解と早期受診の大切さを伝えました。



【患者会 HS Voices Connect Japan よりコメント】

HS の患者コミュニティ形成や情報発信に取り組む患者会、HS Voices Connect Japan（化膿性汗腺炎 声でつながる会）代表の川上剛志氏より、本イベントの開催を受けてコメントをいただきました。患者会の詳細については、[こちら](#)をご覧ください。



HS は、痛みだけでなく、周囲に話しづらい不安や孤独を抱えやすい疾患です。今回のイベントを通じて、HS を知る方が増え、「自分だけではない」と感じられる方が一人でも増えることを願っています。私たち患者会も、一人ひとりの声をつなぎ、必要な情報を収集し、安心を感じられる環境づくりを進めていきます。そして、早期受診や理解が広がり、誰もが相談しやすい社会の実現に取り組んでまいります。

◀患者向けサイトのイメージキャラクター（患者会代表・フリーランスデザイナー川上氏 作）

【化膿性汗腺炎（HS）について】

化膿性汗腺炎（HS）は、痛みを伴うしこりや膿（うみ）が繰り返し現れる慢性の皮膚疾患です^{2,3}。主にわきの下、足の付け根、お尻、肛門の周囲、乳房の下など、皮膚がこすれやすい部位に生じます^{2,3}。初めはしこりや膿のたまりとして現れますが、症状を繰り返すうちに皮膚の下にトンネル状の通り道（瘻孔）ができたり、傷あとや瘢痕（はんこん）が残ることがあります^{2,3}。強い痛みや膿による不快感は、日常生活や仕事、学業などに大きな影響を与えることがあります^{2,3}。HS は主に思春期以降に発症します。欧州では人口の約1%にみられると報告されていますが、本邦では正確な患者数はわかっていません^{2,3}。欧米では患者さんの約3人に1人に家族歴があるとされていますが、日本では2~3%程度と報告されています⁴。また、HS による痛みや排膿、傷あとなどの症状は身体的な負担だけでなく、人目が気になることによる心理的な負担にもつながります。その結果、人との交流を避けるようになったり、自信を失ったりするなど、対人関係や学業、仕事を含むさまざまな生活場面に影響を及ぼす可能性があります^{2,4,5}。慢性に経過し、徐々に進行する疾患ですので、早めに皮膚科を受診し、治療について相談することが大切です。

HS に関する詳細については、**ひふ科で話そう HS（化膿性汗腺炎）**：<https://ucbcares.jp/patients/hs/ja> をご覧ください。

【UCB（ユーシービー）について】

UCB (www.ucb.com) は、ベルギーのブリュッセルに本社を置くグローバルバイオフーマで、ニューロロジーや免疫・炎症領域の重篤な疾患と共に生きる患者さんのより良い生活の実現を目指して、革新的な医薬品の研究開発ならびにソリューションの提供に力を注いでいます。約40カ国に拠点を置き、従業員数は10,000名あまりを擁しており、2025年の収益は77億ユーロでした。UCB はユーロネクスト・ブリュッセル証券市場に上場しています。

ユーシービー・ジャパン株式会社は UCB の日本法人として 1988 年に設立され、抗てんかん薬、関節リウマチ治療薬および乾癬治療薬を中心に医薬品事業を展開してきました。2023 年より希少疾患領域でも治療薬の販売を開始しました。患者さんにとっての価値を創造するバイオフーマとして、従来の治療で十分な改善が得られなかった患者さんに、新たな治療の選択肢を提供することを目指しています。ユーシービー・ジャパンの詳細については <https://www.ucbjapan.com> または、[LinkedIn](#)、[YouTube](#) をフォローしてご覧ください。

出典

1 Saunte DM, et al. Br J Dermatol. 173 (6) :1546-1549, 2015

2 Jemec GBE. Clinical practice. Hidradenitis suppurativa. N Engl J Med. 2012;366(2):158-164.

3 Sabat R, Jemec GBE, Matusiak L, et al. Hidradenitis suppurativa. Nat Rev Dis Primers. 2020;6:18.

4 化膿性汗腺炎診療の手引き策定委員会、葉山惟大、井上里佳、大槻マミ太郎ほか、「化膿性汗腺炎診療の手引き 2020」『日本皮膚科学会雑誌』2021年 131 巻 1号 p.1-28

5 Koumaki D, Ourania E, Bozi E, et al. Perspectives On Perceived Stigma And Self-Stigma In Patients With Hidradenitis Suppurativa. Clin Cosmet Investig Dermatol. 2019;12:785-790.

お問い合わせ先

ユーシービー・ジャパン株式会社 広報

03-6864-7450



Inspired by patients.
Driven by science.